

火災の悲劇を防ぐ

——防火管理者の役割と責任——



2001年9月・歌舞伎町ビル火災



1982年2月・林業ニューバトン火災



防火管理とは……
徹底検証!!



1980年11月・川治ブリスビル火災



1977年2月・札幌市内 病院火災



1973年11月・大洋デパート火災

企画意図

44人もの死者を出す大惨事となった東京・新宿歌舞伎町の雑居ビル火災。多くの犠牲者を出した直接の原因は、煙による一酸化炭素中毒であるが、これまでに、被害を大きくした要因は、ずさんな防火管理、防火設備の不備、欠陥でした。

過去の大火災でも、消火設備がなかった、階段に避難の障害になるものが放置されていた、防火管理者が選任されていないなど、防火管理の軽視が火災による大惨事を招いてしまっているのです。

そこで、この作品では、企業や事業所の中での防火管理のあり方、そして防火管理者の役割と責任について考えていくものです。

ビデオ価格 60,000円+税 視聴時間 22分

【不二映画・映学社 作品】

作品の内容

あるホテルに勤務する石井さん。石井さんはフロント業務をこなすかたわら、今年から防火管理者に選任された。今、その重要性が注目されている防火管理者には、一体どんな役割と責任があるのか。作品は、石井さんの防火管理者としての業務を追いつながら、防火管理者の仕事の分かりやすく説明していく。そして過去、防火管理の不備が、災害を拡大した悲惨な火災事例を取り上げ、それから、我々は何を学ぶべきか検証する。

■防火管理者とは

多くの人が入り出す建物では消防法により、その規模や構造などに応じて、必要な消防用設備の設置が義務づけられている。自動火災報知設備、室内消火栓、スプリンクラー……などである。

消防用設備を設置するのは、建物の所有者や経営者である管理権原者だが、日頃それを維持管理するのが防火管理者である。防火管理者に選任される条件は『管理的または監督的地位の者』と『防火管理者資格取得者』である。

社長から防火管理者の辞令を受けた石井さんは、早速、所轄の消防署に防火管理者となった選任届けを出しに行く。

◆管理権原者・防火管理者の甘い認識が起こした惨事

—ホテル・ニュージャパン火災

1982年2月、東京・赤坂のホテル・ニュージャパンの9階の客室から出火。宿泊客32名が死亡、34名が重軽傷を負う惨事となった。営利重視で安全管理を怠った経営者には、これまでに例のない禁固3年という厳しい実刑判決が科せられた。

■防火管理者の重要な仕事・消防計画の作成

消防計画とは、火災が発生しないように、また万が一発生した時、被害を最小限にするために、事業所全体がどのように機能的に動くかを、予め計画しておくものである。部署別に防火担当責任者を決めたり、各階ごとに火元責任者を決めたりする。この計画の如何によって、いざという時の対応に大きな違いが出て来る。

石井さんも消防計画を考え、従業員一人一人に理解してもらう工夫をしていく。

◆消防計画がなかったための悲劇—熊本・大洋デパート火災

1973年11月、熊本市・大洋デパート3階、階段付近から出火。地下1階、地上9階建てをほぼ全焼。死者103名、負傷者121名を出すというデパート火災では、最大規模の大惨事となった。従業員千名に及ぶ大企業でありながら、消防計画が作成されていなかったことが被害を増大させた。

■消防用設備の定期点検・自主点検

石井さん立ち会いのもと、消防用設備の定期点検が行われている。専門的な知識や機器が必要な定期点検は、消防設備士などによって行われる。防火管理者は点検結果を管理権原者に報告して、判明した不備や欠陥を早急に改修しなければならぬ。

そして、防火管理者が日常業務として自主的に行うのが、消防

用設備の自主点検である。

防火管理者の石井さんが、消火器やスプリンクラー、自動火災報知設備などを点検し、自主点検表を作成していく。

◆点検されていなかった消防用設備—川治プリンスホテル火災

1980年11月、栃木県・川治温泉の川治プリンスホテルから出火し、四階建てホテルが全焼。宿泊客ら45名が死亡、22名が負傷するという、旅館・ホテル火災としては、近年最大の死亡者を出す惨事となった。消火器から薬剤が出なかった、消火栓から水が出なかった、などの消防用設備の欠陥が指摘された。

■繰り返しの消防訓練と普段からの安全管理意識

今日は石井さんを中心に自衛消防団が編成され、大がかりな消防訓練が行われている。自動火災報知設備を作動させ、通報・放送、初期消火、避難と実際の火災さながらの訓練だ。こうした身体を使った消防訓練を繰り返す行いが、万が一の時、パニックを起こさずに、自分の任務を遂行できることへつながら、専門家も指摘する。

◆パニックで初期消火、通報が遅れた—札幌・病院火災

1977年2月、札幌市のある病院の診察室から出火。2階全部と1階の一部を焼失するとともに、新生児3名を含む計4名が焼死する痛ましい火災が発生した。事情聴取により火災に直面した人間がパニックに陥り、判断を誤ったことが判明した。

消防車も到着して、訓練もクライマックスだ。過去の火災事例からも分かるように、日頃の地道な防火管理、繰り返しの防火訓練が我々の命を守る。「自分の職場は自分で守る」この基本精神こそが、火災の悲劇を防ぐのだ。

●監修：東京大学 大学院工学系 教授
工学博士 菅原 進一

●協力：越谷市消防本部
ホテル サンオー
南越谷オーバ
天草病院
袋山保育園

●資料提供：東京消防庁
熊本市消防局
藤原町消防本部
テレビ熊本
札幌テレビ

●スタッフ

制作 監督：高木 裕己 撮影：森 隆吉
録音：沢畑 明
プロデューサー：篠原 修 選曲：柏瀬 紀代隆
CG制作：小嶋 宏幸
脚本：高木 裕己 高橋 誠哉
加藤 有芳
ナレーター：中里 雅子

●企画 制作 著作：不二映画株式会社
株式会社映学社

お問い合わせ

 株式会社映学社
EIGAKUSYA CO.,LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-7-8 らんざん5ビル
TEL:03-3359-9729(代表) FAX:03-3359-4024 info@eigakusya.co.jp